

2015 ミス・ユニバース・ジャパン

宮本エリアナさん

インタビュー会場に颯爽と歩いていらした宮本エリアナさんの印象は“カッコイイ女性”。インタビューでは、はじけるような笑顔を交えて、ミス・ユニバースの舞台裏や美しさを保つ秘訣から、将来は人種差別やLGBTなどの人権問題に取り組みたいという話まで、快活に語っていただきました。

(聞き手・構成：伊藤 敬史，小峯 健介)

*このインタビューは、2015年12月20日のミス・ユニバース世界大会を間近に控えた、同年10月下旬に行われました。



— お生まれは、長崎県ですか。

はい、佐世保です。

— 子どもの頃は、どういうお子さんだったのですか。

結構元気な方でしたね。おままごとよりは、山で遊んだり、海で遊んだりするような。

— 子どもの頃、将来の夢はありましたか。

ファッションというか、お母さんの洋服を着るのが好きだったり、メイク道具を勝手に使ってメイクしたりするのが好きだったので、小さい時からモデルさんになりたいと言っていたみたいです。

— では、子どもの頃からの夢が実現してきているのですね。

今はそうですね。

— お父様がアフリカ系アメリカ人で、お母様が日本人ということで、子どもの頃に嫌な思いをされたことはありましたか。

やっぱり外見が他の人と違うということもありますので、偏見の目がありました。「ハーフ」ということ自体がコンプレックスでした。

— 偏見というのは、どういうときに感じましたか。

小学校低学年の頃は、それほど親しくない同級生

からは、「肌の色がうつる」といった言葉を受けることがありました。

— そういうときは、どう対応していたのですか。

何も言い返さないし、親にも学校の先生にも別に相談しないタイプでした。ずっと聞き流す的な。でもやっぱり言われていい気分はしないので、それはあまりいい思い出ではないです。

— 中学3年生の時にアメリカにいらっちゃったということですが、人種に対する考え方で、日本との違いを感じることはありましたか。

私は父がアメリカ人なのですが、アメリカに行って「英語が話せない」と言っても、向こうの人は、「日本で生まれ育ったから当たり前でしょう」と普通にとらえてくれる感じでした。日本だと、私が英語を話せないと、「えっ、何で？」みたいに、外見から判断されてしまうところが、違いかなと思います。アメリカはいろいろな国の方が普通にいる国なので、その違いかなと思いますね。

— そういうアメリカ社会で生活してみて、日本の社会に対して思うことはありますか。

日本もとても住みやすい国だと思います。ただ、もっとオープンになればいいのと思うことはあります。

「ハーフ」という言葉自体、日本人ではないというような言い方じゃないですか。そういう言葉はなくなればいいのにとおもいますね。

— 「ハーフ」という言葉は、差別的な用語と言われることもありますね。

アメリカにはないですね。あと「外人」という言葉も使わないです。

— そうですよ。日本でもそういう言葉を使っただけじゃないという感じになってきているとは思いますが。

だいたいそうやってきてはいますが、まだ私のことを「外人」とか「外国人」と言う人がいるのはどうかと思います。

— 先日のラグビーのワールドカップでは、いろいろな出身国の人々が日本代表になって「ジャパン」というチームを作っていましたが、ご覧になって感じることはありましたか。

私には偏見はまったくないですし、日本代表として戦ってくれるのはうれしいなとも思います。それと比べて、私がミス・ユニバースの日本代表になった時にパッシングされたのは、おかしいんじゃないかなと思いました。

— そもそもミス・ユニバースに出場しようと思ったのは、どういう経緯ですか。

ミス・ユニバースの地方事務局は、日本では47都道府県にあります。私は長崎の地方事務局の方からスカウト的に声を掛けてもらったのが最初のきっかけでした。その時はお断りしたのですが、その年に、仲の良い白人系の「ハーフ」の友人が自ら命を絶ちました。やはり、外見は外国人のように見えるということで、コンプレックスを持っていたようでした。それでその友人のためにも何かできないかなと考えていたときに、もう一度長崎の地方事務局の方に声を掛けてもらったので、この機会を使って世界に訴えることができないかなと思って出場しました。

— そういう深い経緯があったんですね。基本的なことを伺いますが、ミス・ユニバースの日本代表を選ぶために、まず各都道府県で選考があるのですか。

そうです。まず長崎で書類審査があって、その後の長崎大会でグランプリになって、長崎県代表として

次の日本大会に進んで、そこでグランプリになって、日本代表として世界大会に進むという感じです。

— 世界大会まで、とても遠い道のりなのですね。

そうですね。都道府県での審査から世界大会までは1年ちょっとかかりますね。

— 大変ですね。日本大会の審査期間はどれくらいなのですか。

今年は2週間くらいでした。都道府県の代表が泊まり込みのビューティー・キャンプをして、そのまま日本大会となりました。

— ビューティー・キャンプというのは、どういうことをするのですか。

合宿で、肌、髪、ヘア、骨盤、頭蓋骨など、美に関することをすべて学びます。

— そういう勉強までするんですね。それで日本大会で優勝された時は、どのような気持ちでしたか。

本当にうれしかったですね。最終的には世界大会が目標なので、日本大会を目標にしていたわけではないのですが。

— その時は、ニュースでかなり話題になって、先ほどおっしゃったように「ハーフ」ということでの中傷もあったと思うのですが、それに対してお感じになることはありましたか。

いい気分はしないですけど、出る前からそういう批判は来るなというのはわかって出場しているので、すごく落ち込むということはありませんでした。

— ポジティブなとらえ方ですね。

そうですね。むしろ偏見を変えようと思って出場したというのがきっかけなので、そういう批判的な言葉が一切なかったらなかったで、「あれ？」と思っていたかもしれないです（笑）。

— 日本の国際結婚率は2013年で3%くらい、2006年は6%くらいです。そこから生まれる子どものことを考えても、クラスに1人か2人くらいは、国際結婚の間に生まれた子がいる感じですよ。

そうですね。最近は多くなってきています。



Photo by SHIN YAMAGISHI

— そういう子どもたちは、エリアナさんが日本代表になったのを見て、勇気づけられたのではないですか。

そうですね。「自分もミックスです」とメッセージをくれる子がいたり、あとは「ハーフ」の子を持つ親から連絡をいただくことも結構あります。「エリアナさんのおかげで未来が明るくなりました」とか、「勇気を持つことができました」とか、「私も英語が話せないので…」という相談とか、いろいろ来ます。

— そういう反応があるのはうれしいですね。

自分のおかげでと言ってもらえると、うれしいですね。

— 世界大会でも、またビューティー・キャンプがあるのですか。

そうですね。次は3週間あります。

— そうすると、今度は世界中からいろいろな人が集まってくるのですか。

そうですね。2014年度は88カ国の代表がいたそうです。

— そんなにたくさんの国から集まるのですか。そういうキャンプでは、言葉の問題もあるのではないですか。

基本は英語ですけど、英語を話せない国の方もいるので、そういうときはジェスチャーとかになりますよね。スペイン語圏の方たちはその方たち同士で話せますけど、アジアは国によって全部言葉が違うので、そういうところは大変だったと去年参加した人から聞きました。

— 美しくあるために、心掛けていることはありますか。

歩く姿勢は気をつけていますね。歩いていてショーウィンドーに映る自分の姿をサングラスから横目で見たりしています。

— 私たち弁護士は、不健康な生活をしている人が多いと思うのですが、弁護士でも心掛けられるような秘訣とかありますか。

やっぱり食べ物ですかね。あとは睡眠ですね。最低でも3時間は取った方がいいというのは聞きます。

— 3時間というと、結構少ないですよ。

でも、その間に夢も何も見ないで本当にぐっすり寝ると、結構違うとは聞きます。

— ぐっすり眠る秘訣はありますか。

私は、必ずお風呂につかります。時間がなくてもシャワーだけというのは少ないです。お風呂で体を温めて、シャットと布団に入ると結構寝られるかもしれないです。

— 食事は、具体的にどういうところに気をつけていますか。

今は世界大会前でウエートを付けている状態なので、アスリートのような感じです。1日6食、食べていますね。

— 6食も？

はい。プロテインも飲んでいるので、プロテインも1食として換算するのですが、こまめに取るようにしています。今は、本当にアスリートのような感じです。

でも、普通の人だったら、3食きちんと取った方がいいと思います。2食だけとか、やせたいから1食だけとかではなくて、3食取った方がきれいにやせられます。朝は、フルーツだけというのもいいみたいですね。やせる、やせないとは関係なしに、朝はフルーツをたくさん食べた方が胃の中もきれいになるというのは勉強したことがあります。

— 先ほど6食とおっしゃったのは、数が多い方がいいということなのですか。

数の問題というより、お腹いっぱい空腹の波をなくして、血糖値をアップダウンさせないで、常に一定にしておく、体づくりにはいいですね。

— 弁護士は、食事の時間が不規則になりがちなので、血糖値がガーンと上がっているかもしれないですね。

大変ですね。鶏肉の小さいさ身とか、サラダとか、何でもいので食べるといいと思います。頭を使うのであれば、ゼリー飲料などでも食事と食事の間に挟むと、何も食べないで急に食べるよりはいいかもしれないです。あとずっと頭を使っていたりすると、チョコレートもいと聞きます。カカオ70%ぐらいがおすすめですかね。

— お酒は好きですか。

正直大好きです。でも、今は極力減らしていますし、おつき合いで何か飲まなければいけないときはウイスキーにしたりしています。赤ワインも好きなのですが、歯が汚れてしまうので、今は絶対に飲まないようにしています。

— では、世界大会が終わったら、お酒が楽しみですね。

今年の夏はビアガーデンに行けなかったのが、来年の夏がすごい楽しみです（笑）。

— 世界大会に向けて、どのように臨みたいですか。

日本大会の時もそうだったのですが、自分らしくいようというのは心に決めています。世界に行くと他の人たちを見ると、それに左右されてしまう人がいるのですが、そこに流されないのが自分の強みかなと思うので、そのスタイルは崩さずに世界大会に挑みたいですね。

— 自然体ですね。

そうですね。自然体です。いくら着飾っても、ぼろが出てしまうとばれてしまうので、最初から自然体で行こうと決めています。

— マスコミのインタビューなどで、人種差別の問題に取り組んでいきたいというご発言をなさっていましたが、今後どのような活動をしていきたいですか。

世界大会が終わってからは具体的に考えられないのですが、人種差別だけではなく、LGBTの問題とか、人権すべてにおいて何かできたらいいなという気持ちはあります。支援団体を作ったり、ボランティアだったり、そういう活動はやりたいと思いますね。

— LGBTも含めて、いろいろな問題でマイノリティの方の支援をするときに、どういうことを意識すればいいと思いますか。

例えばLGBTだったら、その当事者の話を聞いていて、その上で対策を練れたらと思います。差別されている人の気持ちというのは、本人にしか分からないことが多いので。友人にLGBTの方が結構多いです。

— 結構な確率でいますよね。それこそクラスに平均1人以上いるでしょうね。

そうですね。クラスに2~3人はいると思います。この間もカミングアウトしている人が学校で何人かいました。それを隠しながら、「実はね…」と言うのではなくて、オープンに言えるような国、世界になっていったら、うれしいと思います。

— 最近そういうのが少しオープンになってきつつありますね。

少しずつそうなっていますね。同性婚も認められてきてきているので、変わってきたのかなと思います。

— エリアナさんがそういう活動に取り組むことで、さらに広がるといいですね。

頑張りたいですね。

— 今後の夢をお聞かせいただけますか。

元々モデルさんになりたかったので、芸能界にも興味はあります。それから、うちの家族は全員自営業をしているので、私もゆくゆくは自分の会社を持ちたいというのが大きな夢ですね。

プロフィール みやもと・えりあな

1994年生まれ。長崎県佐世保市出身。身長173センチ。2015年3月に開催された、2015ミス・ユニバース日本大会で長崎県代表として出場し、ファイナリスト44名の中からグランプリを獲得。同年12月20日開催の「2015ミス・ユニバース」に日本代表として出場。趣味はバイクと料理、特技はバレーボールとダンス。